

産業牽引型イノベーション創出若手人材養成

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：岐阜大学（総括責任者：森 秀樹）

プロジェクトの概要

自動車、航空機、ロボット、セラミックス、バイオ、医薬等の飛騨・美濃・尾張地域の産業の牽引に必要な、マネジメント力、コミュニケーション力、協調性、創造性を備え、国際的な広い視野と実社会のニーズを踏まえた発想を身につけた人材の養成を目的とする。「岐阜大学イノベーション創出若手人材養成センター」を設置し、情報を一元的に統括し、教育プログラムの策定・運用を行う。学内外から選抜した若手研究者に、イノベーションスキルプログラム（6ヶ月）の実施後に、国際教育研究プログラムまたは産学連携教育研究プログラムの実践プログラム（3-6ヶ月）を行う。イノベーションスキルプログラムとして、アイデアトレーニングキャンプ、エンライトメント・レクチャー、ビジネス英語を行う。国際教育研究プログラムでは海外の国際交流協定大学に派遣する。産学連携教育研究プログラムでは、人材養成協力協定を締結した企業へ派遣する。プログラムを通じて、地域産業を牽引でき、国際的な視野を持った高度産業技術を有する研究人材を養成する。修了時には、産学共同イノベーション創出若手人材養成センターでの研修報告プレゼンテーション等で評価を行う。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
A	b	s	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

計画時のポストドクター、博士課程（後期）学生の参加者数の見込が甘く、養成人数の目標を高く設定し過ぎたために、応募者数、養成者数が目標数には達していない。一方で、人数自体は相応の確保をしており、実践プログラムの内容も良く、従来、産学連携がほとんどなかった地域において、本事業実施のための新しいプログラムを立ち上げ、確実に前進していることが見られる。また、課題やそれに対する取組、問題点の分析を行い、実施体制改善への対策がなされている点は評価できる。今後は教員への一層の意識改革を進めることを期待する。

- **進捗状況**：計画時の参加者数の見込が甘く、応募学生、養成者の数は目標に達していないが、目標設定に問題があったことを分析し、対策を立て、今後の改善の見通しを示したことは評価できる。また、本事業の実施のための様々な実践プログラムを立ち上げている。
- **イノベーション人材養成システム改革状況**：学長のリーダーシップの下に、PDCA サイクルを動かしながら博士人材の養成システム改革に取り組んでいるほか、グローバルな取組も積極的に進めて良い成果を挙げている点が高く評価できる。教員の意識改革については組織としてさらに進めることを期待する。
- **実践プログラムの開発・運用状況**：学外の企業の協力の下に実践プログラムが開発され、その内容は充実しており、かつ、効果を上げている。また、開発したカリキュラムを全学的に単位化する努力がなされており、定着が進んでいることは高く評価できる。今後の拡大も期待できる。
- **実施体制**：学長がリーダーシップを発揮し、実効的な体制ができている。5 研究科への説明会など、積極的に本事業の学内周知を行い、教育や人材養成プログラムの改善へと繋げている。当初の高すぎた養成人数目標の反省、分析を行い、その対策も妥当である。外部人材を活用していることも評価できる。
- **今後の進め方**：全学的位置付けの明確化、資金確保などは評価できる。現時点での課題を明確にし、対策を考えており、継続効果が期待できる。今後はさらなる事業の発展のため、企業拡大に一工夫することを期待する。